

文化の記録と映像表現

— 川瀬慈作品特集 —

2013年6月16日(日) 13時30分—16時(開場13時)



国立民族学博物館 講堂(定員450名)

参加無料/申込不要 ※入場整理券を10時から講堂入口にて配布

『最も革新的な映画賞 Premio per il film più innovative』

サルデーニャ国際民族誌映画祭(イタリア) 2008年10月

その他 国際学術映画祭多数入選

ラリベロッチ — 終わりのなき祝福を生きる —

Room11, Ethiopia Hotel

精霊の馬

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

民族誌映画制作の方法論の開拓にとりくむ川瀬 慈による、エチオピアの音楽や宗教、子供たちを対象とした3本の映像。制作者自身による解説を聞くことによって、民族誌映画の魅力や可能性に触れる。

1 ラリベロッチ

— 終わらなき祝福を生きる —

30分 / 2007年 (再編集版)
撮影: 川瀬 慈・ジャマル モハメッド
編集・録音: 川瀬 慈
撮影場所: ゴンダール エチオピア連邦民主共和国

【国際学術映画祭入選】
第10回ベルリン民族映画祭、ベルリン民族学博物館 2007年11月
Days of Ethnographic Cinema 国立ロシア文化研究所 2009年10月

エチオピア高原北部を広範に移動するラリベロッチと呼ばれる吟遊詩人は、早朝に家の軒先で唄い、乞い、金や食物を受け取ると、その見返りとして人々に祝詞を与え、次の家へと去っていく。ラリベロッチは、唄うことを止めるとコマタ(アムハラ語でハンセン氏病の意)を患うという差別的な言説のもと、謎に満ちた集団として人々のあいだで語られてきた。本作は、ラリベロッチ老夫婦の路上での活動と聴衆とのやりとりを詳細に記録。

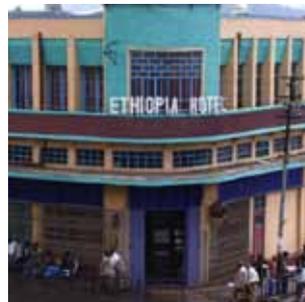


2 Room 11, Ethiopia Hotel

23分 / 2006年
撮影・編集・録音: 川瀬 慈
撮影場所: ゴンダール エチオピア連邦民主共和国

【受賞】
『最も革新的な映画賞 Premio per il film più innovativo』
サルデーニャ国際民族誌映画祭(イタリア) 2008年10月
その他 国際学術映画祭多数入選

ゴンダール中心に位置するエチオピアホテル11号室の窓から下を見下ろすと、靴磨き、豆売り、荷物運び、洗車係等、ストリートは働く子供たちであふれている。本作は、ゴンダールの路上で人々が繰り広げる細々としたドラマと、路上で生活を行う2人の少年シファロとヨハネス、そして撮影者である制作者自身によるホテルの部屋でのやりとりから生起する物語に焦点をあてた。本作では、撮影者と被写体による“コミュニケーション、コラボレーションの証”としての映画的話法を提示した。



3 精霊の馬

28分 / 2012年
撮影・編集・録音: 川瀬 慈
撮影場所: ゴンダール エチオピア連邦民主共和国

【国際学術映画祭入選】
第9回スラヴォニア国際民族映画祭(クロアチア) 2012年6月
第32回北欧人類学映画協会主催映画祭(ノルウェー) 2012年8月
第6回モスクワ国際映像人類学祭 2012年10月
第10回 Worldfilm Festival of Visual Culture (エストニア) 2013年3月

精霊の馬(アウォリヤ・ファラス)とは、エチオピアのザール憑依儀礼の霊媒を意味する。エチオピア北部の都市ゴンダールは、古くからザール憑依儀礼が盛んであり、ミシェル・レリスの著書『幻のアフリカ』における記録がよく知られる。本作では、ザール霊媒マレム・ムハメッド氏と精霊セイフ・チャンガルの交流、交感を軸に、当儀礼に人々がもつめる世界を描く。



川瀬 慈 (かわせ いつし) Itsushi kawase

映像人類学研究者。国立民族学博物館 助教。1977年岐阜県生まれ。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了後、マンチェスター大学グラナダ映像人類学センター研究員、Sound Image Culture (ベルギー) 客員講師などを歴任。エチオピアの音楽・芸能をはじめアフリカの無形文化に関する人類学研究、および民族誌映画制作に取り組む。

作品参考URL: <http://www.itsushikawase.com/japanese/>

2013年6月16日(日)
13時30分~16時(開場/13時)

司会・解説 川瀬 慈 (国立民族学博物館 助教)
参加料 無料 (本館展示をご覧になる方は観覧料が必要です)
定員 450名 (入場整理券を10時から講堂入口にて配布)
主催 国立民族学博物館

国立民族学博物館

交通のご案内 国立民族学博物館(みんなく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車徒歩約15分
* 映画会のみ参加される方は自然文化園(有料区域)を通行される場合入園料が必要となります。「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
 - バス……………阪急茨木市駅・JR 茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から、自然文化園・日本庭園中央経由のバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
 - タクシー……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れられます。
 - 乗用車……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
- * 「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。



T 565-8511
大阪府吹田市千里
万博公園10番1号
広報企画室 企画連携係
Tel: 06-6878-8210
(土日祝を除く 9:00-17:00)
<http://www.minpaku.ac.jp/>

